



インフルエンザ ～感染対策・迅速検査・治療に関して～

【感染対策】 ぜひ町や村の予防接種を受けてください。予防接種は100%インフルエンザにかからないことを保障しませんが、症状軽減が期待できます。予防接種をする人が増えると集団免疫（感染が流行しづらくなること）も期待できます。北通り3カ町村の接種率をあげることでインフルエンザ流行の可能性を減らすことができると思います。流行期の対策は最低1メートル以上の距離感を保つこと（隔離場所などの患者間距離）、症状がある方のマスク着用、本人・周囲の手洗い、適度な加湿です。対策を徹底してください。

【迅速検査】 100%の検査は存在しません。インフルエンザ迅速検査は物凄く出来が悪く、流行期の検査陰性がインフルエンザウイルス感染ではないとは口が裂けても言えません。流行期における典型的なインフルエンザ症状がある方の検査陰性者の半分くらいは、実はインフルエンザ感染です。よって、流行期に検査をする意味は感染しているかどうかの判定に関してはないに等しく、症状からインフルエンザと考えることが良いと思われます。当院では今年度、各教育・介護施設へインフルエンザ対応について指導しました。流行期に疑わしきは検査陰性でもインフルエンザと診断することが多いこと（つまり検査しなくても状況によりインフルエンザと診断する）、流行前期においても検査で100%白黒つけることは無理であること、最も大事なことは症状の経過観察と周囲への感染対策であることをみなさんご理解ください。

【治療】 インフルエンザは自然に良くなる（薬を使用しなくても治る）のが普通です。最初インフルエンザと診断されたのに良ならない時は他の発熱疾患ではないのか、インフルエンザ後の肺炎ではないのか等を十分に検討しなければなりません。薬は全例に必要ではなく、医師が必要と考えた場合（副作用が起こるかもしれないが、薬の使用により患者や家族が良い方向に向くと考えられた時）に投薬します。全例投与してしまうと薬がなくても自然に治ると予想されるのに、使用した薬による弊害が起こらないかの経過観察が必要となります。抗インフルエンザウイルス薬はウイルスを殺しません。ウイルスの増殖を（原則発症後48時間以内に投与することで）抑えるだけです。一般的には抗ウイルス薬投与により1日程度発熱期間を短くします。ここで考えて戴きたいことは副作用です。以前タミフルを服用した患者が異常行動を起こし死亡したことが話題となりました。薬には多かれ少なかれ副作用があることを忘れてはいけません。タミフル以外の薬（吸入薬・点滴薬）も同様です。抗インフルエンザ薬使用にあたっては話合いが必要です。

多くは①か②のどちらかと思われます。

①副作用発生を十分に警戒できるから1日解熱を早めてくれる薬を使用

②1日解熱を早めるくらいなら副作用発生を心配する必要がある薬を使用しない

私自身は、抗インフルエンザ薬投与が推奨される以外の患者には原則、抗インフルエンザ薬を使用しなくても良いと考えています。ちなみに抗インフルエンザ薬に対する患者や医師の過度な期待もあるのか、日本では世界にあるタミフルのうち7割が使用されています。

「新たなビジネスモデルの創造」
「セキュリティなど進化するネットワークへの対応」
ワンストップソリューションをご提案



FUJITSUパートナー

扶桑電通株式会社

■青森営業所 青森市長島二丁目13番1号
TEL. 017-775-2031(代) FAX. 017-774-4720

■八戸営業所 八戸市三日町2(青銀明治安田生命ビル)
TEL. 0178-44-1855 FAX. 0178-44-8494

《ホームページアドレス》
<http://www.fusodentsu.co.jp>